

往復書簡(後編)

兵庫県相生市でしいたけの生産・販売を手掛ける深山陽一朗さん。深山さんが「ものさし」について「分析検証」した結果に対し、高木理事長も自らの「ものさし」について語りました。

拝啓 高木 勇樹 様

お盆も過ぎ、関西は少しづつ涼しくなってきたような気がしますが、いよいよ秋が訪れ、きのこの季節になります。

さて、前回ご示唆を賜りました「自分自身のものさし」について、私なりに分析検証してみました。そうすると、曖昧模糊としていたものが、ぼんやりとですが見えてきました。結論としては、私は「利他の精神、つまり、自分自身の行動が他人のためになっているか」を『最上位のものさし』にしているということでした。

これまでの自分自身を振り返ってみると、利己的な行動が多かったように思います。サラリーマン時代には、自分の数値目標の達成を重視してきましたし、農業経営者になってからも自社の利益を追求してきました。こうした行動の源泉には、他人のことを気にするのは、まずは自分が一人前になってからという考えがあったのだと思います。

どのような偉人でも、幼少・青年期から偉人であった訳ではなく、自らの願望を満たしてきた老年期において、社会課題の解決などに移っていく。まずは自分自身のためというところから始めて、次に身近な人のため、業界のため、社会のため、時代のためといった形でステージが上がっていくものだと考えていました。

しかし今回、じっくりと考える機会を持つことで、そうではないとつくづく感じました。確かに「行動」としてはそのようなステップを経るのかもしれませんが、あくまでも、「目線」は初めからより高い次元に置いておく必要がある。また、普通の人間であれば、高い次元に目線を置かずにはられないのだと思います。

前回、「経営者の役割をおごりなりにして目先の作業にかまけてしまった際に、良心の呵責に苛まれる」とご相談申し上げました。これは、おそらく自分自身の行動が経営者としての目線に届いていない

だったため、そのギャップに苦しさを感じたのだらうと思います。

また、会社が利益を上げ、経営者としての第一義的な役割を果たせていると感じられるときにおいても、どこかに物足りなさを感じている自分がいました。この行動は本質的に社会に役立っているのかと……。

一步引いて自らを見直してみると、私は自分自身の行動に対して「利己的な一段低い目線に立ってしまっている」と常に不満を感じていたのです。これは、逆説的に捉えると、「他人のためになっているか」を、無意識的に最も重要視していたことに他ならないのだと思います。それがあまりにも現実の行動とかけ離れているために、言語化出来ていなかっただけなのです。

ここまで結論が出ると、思いつきり高い目標を設定し、現状とのギャップを埋めるために具体的な行動を繰り返していくのみだと思えます。抽象的な分析結果となってしまう大変恐縮ですが、これが現在の私が達した結論です。

もしよろしければ、高木様のものさし、そのものさしを持つに至った経緯について、少しだけでもお聞かせ頂けると大変嬉しく存じます。

平成29年8月吉日

深山陽一朗(ふかやま よういちろう)

1981年 兵庫県 生まれ

2007年 京都大学大学院農学研究科修了後、

株式会社三井住友銀行入行

農業や再生医療などの新規事業開発

を担当

2016年 実家のしいたけ専業農家を事業承継

し、深山農園株式会社を設立

2017年 J-PAO参加に就任

「食の価値創造企業」を標榜し、しいたけ栽培を皮切りに野菜栽培、加工・流通、海外展開などを展望



敬具

拝復 深山 陽一朗 様

曆の上では、暑さが少しやわらぎ、朝の風、夜の虫の声に秋の気配が漂いだす処暑の候。まさにこの季節到来ですね。

今回「自分自身のものさし」についての分析検証結果を読ませて頂き、貴兄のものさし(感性)の豊かさが、人間力に改めて感心致しました。

前回の私の「ものさし」論では混乱していた「行動」と「目線」を分けて整理されたことにより、「目線」が「最上位のものさし」利他の精神で、私の前回申し上げた「ものさし」は日々現実に起こる具体的「行動」を律するものさし。人間力と私自身整理することができました。

そのように理解すると「・・・私は自分自身の行動に対して利己的な低い目線に立ってしまっている」と常に不満を感じていた「・・・」のは日々の具体的行動を律する人間力が十分身に付いていないということであり、このことを「・・・逆説的に捉えると他人のためになつていないかを無意識的に最も重要視していたことに他ならない・・・」と思うのは最上位のものさし。利他の精神がしっかりと貴兄の人生の規範となつている証しだと大変すつきり整理出来ました。

貴兄のいわゆる「目線」と「行動」を律する人間力により森羅万象に対処し、失敗・成功を重ねつつそれを糧に挑戦し続けることにより人間力の内容が豊かさを増し「どのような事態でも最上位のものさし。利他の精神がぶれることなく実現されるようになる」と思います。

公務員(官僚)という私の職業の目線、最上位のものさしは「国民全体への奉仕」です。

行動。公務によりこれを実現する上での行動を律するものさし。人間力の醸成の私の場合の一步を次に記します。

私の一步は、農林水産省林野庁林政部林政課の総務係の一係員の仕事のひとつである「国会連絡」から始まります。

「国会連絡」とは、選良たる議員の国会での林野庁の仕事に関する質問を早く正確に林野庁の各課に連絡することです。

連絡方法は完全にアナログです。足で各課に伝え、答弁を速やかに書いてもらい、上司の決裁を受け完成させ、省全体の国会答弁をとりまとめる官房に持ち込むことです。

何故こんなことを大学出のしかも入省仕立ての人間にやらせるのか。

まず①質問は林野庁のあらゆる部門に及ぶことから林野庁の仕事の概要をつかめること、②質問を伝えることによりその課とのコミュニケーションが生まれること、③何よりも国会を構成する選良たる議員の質問、それへの答弁を通じて、林野庁の仕事ぶりを広く国民に発信できることなどがあげられ

ます。

だからこの行動は公務なのです。とすればこの行動を律する人間力(ものさし)をどのように豊かにし、「国民全体への奉仕」をぶれずに実現しうるようになるのか。

質問の内容を早く正確に伝えるには伝える方がその内容をわかっているだけならなりません。このため、所掌事務を読むのはもちろん、想像力を働かせながら各課の仕事の内容を自分なりに理解する。ただ国会の質問を伝えるだけでなく顔見知りになり、頃合いをみて、じっくり話を聞く、出張に同行する、更にはこの仕事に関係する団体、業界との人間関係を作る、そして情報を正確に伝え共有する、そのようなことの大切さが行動を律する人間力(ものさし)の基礎となります。

この国会対応は一年ほどで終わり、各課と具体的な政策づくりの真似事に従事するようになります。このとき、この基礎的人間力がスムーズに事を進める契機となり、人間力の内容をさらに豊かなものにしてくれます。

簡単にいえば、この繰返しで段々責任、判断を要する仕事をこなせるようになり、それに応じ縁も手伝い人間関係も広がり、成功、失敗を糧に人間力が豊かさを増し、どのような事態でも「国民全体への奉仕」をぶれずに実現できるようになっていくのです。

モノに書けば簡単なようですが、このような中で毀誉褒貶はつきものです。これも楽しみ糧としなければなりません。

貴兄もこれから山あり谷ありでしょうが、楽しみつつ利他の精神をぶれずに実現出来るようまたご健勝と御社の繁栄をお祈りしています。

敬具

平成29年8月吉日

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

1943年 群馬県生まれ
1966年 東京大学法学部卒業後、農林省入省。
食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官などを歴任

1998年 農林水産事務次官、2001年退官
2002年 ㈱農林中金総合研究所理事長
2003年 農林漁業金融公庫総裁、
2007年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構
2008年 同公庫退任

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国の農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力

